

泊目となる宿場町でした。天保 14 年（1843）の「日光道中宿村大概帳」によれば道幅 6 間、長さ 585 間、本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、旅籠 27 軒でした。

<一色稲荷神社>

幸手駅付近に城山、陣屋という地名が残っており、古河公方足利氏の家臣一色氏が館を構えた跡と言われています。一色稲荷神社は一色氏の守り神で幸手城の一角に祀られてたと考えられており、別名「陣屋稲荷」といわれています。



<明治天皇行在所跡>

明治 14 年(1881)と明治 29 年の二度の明治天皇の行在所になった旧中村家跡に建立されています。題字は東郷平八郎元帥。道路の反対側から眺めます。



<神明神社・高札場>

幸手宿右馬之助（うまのすけ）町の鎮守。境内社として成田・菅谷不動などが祀られています。菅谷不動尊は田螺不動といわれ、眼病の人がたにしを描いた絵馬を奉納し祈願すればご利益があるといわれている。鳥居の右には螺不動と彫られた石碑がある。



社の前面には高札場が置かれていたほか、明治初期の測量の際の几号水準点置（英国式）があります。

<日光街道沿いの旧家他>

- ・岸本家住宅 元醤油醸造業「上埜屋」の屋号で明治 33 年（1900）パリ万博に出展し銅メダル。



国登録有形文化財国（建造物）

- ・小島商店 薪炭商・繭糸(けんし)商、昭和 12 年(1937)建築。
- ・あさよろず（旅館朝萬） 建物は新しく旅館になっているが。文政 2 年（1819）創業、板垣退助や伊藤博文らが宿泊した。



・永文商店 現在も酒類販売業で荷さばき用のトロッコは今も使われているようです。



・問屋場跡 信号の脇に問屋場跡、現在は公園となっており説明書き等があります。ここで、一休み

します。

・本陣跡 幸手宿の本陣は知久家が務め、明治9年(1876)の明治天皇行在所ともなりました。現在のうなぎ屋さん、義語屋。

・竹村家 元石炭商。昭和初期の建築です。

・平井家 味噌増の屋号があり元米穀商。大正11年(1922)の建築です。



・飯村医院 代々医・薬種業で大阪屋の屋号があり、大正12年(1923)建築です。



・関薬局 角田屋の屋号があり、明治13年(1880)以降の蔵造り建築です。



<浅間神社>

江戸時代に幸手宿一の豪商であった呉服商長嶋屋が建立したといわれています。安産守護神として知られ、6月30日・7月1日の両日には「初山」という神事が催されています。「初山」とは子供の健康を願う神事であり、その年に生まれた乳児を参詣させ、額に神社印を押してもらい、ネギ・うちわ・痰切飴を購入するというものです。ネギは「節のない子に育つように」、うちわは「子供が無事に夏を過ごせるように」、痰切飴は「富士山の本社を訪れる際、のどが楽なように」という願



いが込められています。本殿の彫刻は市の文化財に登録されており、本殿の西側に「黄石公」、北側に「張良」、東側に「梅福」という中国の歴史・伝説上の人物が彫刻されています。



黄石公



張良



梅福

<権現堂堤>

権現堂堤は桜と菜の花が一緒に楽しめる桜の名所として有名ですが、アジサイ、曼珠沙華、水仙も楽しめます。

権現堂堤は、利根川の本流または支流であった権現堂川の氾濫から江戸を護るため、天正4年（1576）頃に築かれ「御府内御囲堤」とも呼ばれました。明治期には新堤が築かれ、明治天皇が行幸されるなどの由緒を持ちます。しかし利根川改修によって堤の重要性が薄まったのち、明治帝の縁の聖蹟であるこの堤を後世に伝えようと桜の植樹が始まり、観桜地として名声を博すようになりました。ここでお花見をしましょう。

<権現堂の名の由来>

権現堂という名は北3丁目に鎮座する熊野神社に由来します。「新編武蔵風土記稿」によれば、村内に熊野、若宮、白山の権現を合祀せし旧社あれば、此村名起れりと記されており、三社に因み名付けられたことがわかります。

<さくらファーム>

お花見が終わったら、JA 埼玉みずほ農産物直売所『さくらファーム』に寄って見ましょう。お土産物があるかも。（トイレあります）

<正福寺>

正福寺は修行僧の教育をした修学機関である「談林所」があった所です。当時は49もの末寺を持っており本尊は不動明王です。本堂の中の賽

錢箱の彫刻が見事です。将軍になる前の4代将軍家綱が、慶安4年(1649)の日光社参の時、宿泊したと『徳川実紀』にあり、また徳川家光より十三石の御朱印を賜っています。

県指定史跡の**義賑窮餓之碑**があります。天明3年(1783)の浅間山大噴火による大飢饉に際し、米や金を出して万福寺境内で施粥をし、幸手の民を救った21名の義人を讃えたもので、関東郡代伊那忠敬が建てさせたものです。

日光道中の道標

「右ごんげんどうがし 左日光道中」の道標があります。この他、今にも倒れそうな鐘楼があります。



<幸手一里塚跡>

日本橋から12里目の一里塚。

案内板がありますが、痕跡はありません。

<聖福寺>

徳川家光が日光社参の時休息所として使用したのを始めとし、天皇の例幣使や歴代将軍が18回にわたり休息しました。将軍の間、例幣使の間、菊の紋章の入った**勅使門**(唐門：市指定文化財)があります。

本尊は阿弥陀如来で、**観音像**は**運慶作**と伝えられています。また、内陣の欄間の内側には左甚五郎作と言われる彫刻があります。



勅使門



運慶作：観音像



左甚五郎作：四天王

4月13日21時からのTV番組「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！」で聖福寺が出るそうです。

<雷電神社> 見学は割愛

第11代垂仁天皇の時天地が振動雷鳴し、水田中に身の丈7寸余りの黄金の御神像が天から降り、村民のだれもが驚いた。村民は一社を建立したが、黄金の御神像は宝持寺に移した。当時周囲には水田が広がるのみで民家はなく、わずかに当神社が建つのみであった。



ゆえに「水田の中にある社宮」ということから、世の人々はこの地一帯を「田宮」と呼んだ。また、雷神は水との関わりが深いため、特に農民からの信仰を集めた。他に社殿の裏手に「瘤神社」・「疣権現」・「疱瘡宮」と彫られた石が建立されており、皮膚病の人々の信仰の姿を知ることができる。明治維新後の明治6年（1873）村社に指定されています。

<幸宮神社>

創建から400年以上の歴史を持つ古社で、幸手宿の総鎮守として信仰されてきました。昔は、八幡香取社とっていましたが大正3年(1914)に神社の合祀を機に幸宮神社と改めました。

現在の本殿は文久3年（1862）に再建されたものです。正面扉には昇り龍・下り龍、本殿の周りには獅子・鳳凰・天邪鬼・鷹・松などが彫刻されています。田起こしから収穫まで稲作の様子を順を追って描いた四季農耕の彫刻も見事です。



また拝殿には江戸時代の絵師宗文の絵馬一対が奉納されています。

<愛の妻路地>

愛の妻路地と呼ばれる路地がある。切妻と言うように建物の側面を妻というが、この路地は合い妻（相妻？）作りの家があり、たまたま愛妻家がいたので愛の妻路地と言われるようになった。と近所のおじさんが言っていた。

<帰路> 往きと同じルート

幸手ー東武動物公園ー新越谷・南越谷ー新秋津
所沢まで約1時間30分 17時頃 帰着予定